

(事後レポート)

世界 16 の国や地域から 700 余名がなべくら高原の自然を体験 第 6 回多言語・雪の学校が開催されました

文化やことば、世代を超えて「初めての人なのに一緒に活動して仲良くなれた」

多言語教育を提唱するヒポファミリークラブ（運営／一般財団法人 言語交流研究所、本部／東京都渋谷区、代表理事／鈴木堅史）は、2019年3月27日（水）～3月30日（土）の3泊4日、長野県飯山市なべくら高原で「第6回多言語・雪の学校」を開催しました。

毎年3月になべくら高原周辺で開催されるこのキャンプは、文化やことば、世代の異なるメンバーと豊かな自然の中で一緒に遊んだり、協力して生活したりする体験を通して、新しい友情を育む国際交流キャンプです。プログラム期間中は全参加者が25人程度のグループに分かれて活動することを特徴とし、共同生活による他者との協働を通して子どもたちの主体的・対話的な姿勢を育てます。今年は、中国・太湖大学堂の小学4年生45名や、韓国、タイ、イタリア、ロシア、チェコ、アメリカなど16の国や地域にルーツを持つ小学2年生（新3年生）以上、700名余りが参加しました。

戸狩トピアホールで行われたオープニングセレモニーは、海外留学から帰国した高校生や大学生、海外からのインターン生が司会となり、英語、タイ語、中国語、日本語、韓国語、スペイン語などを使って進行されました。また、中国・太湖大学堂の児童がカンフーと飯山が発祥といわれる唱歌「ふるさと」を中国語で披露し、会場を大いに盛り上げました。飯山市長の足立正則氏からは、日本語だけでなく英語や中国語を交えて歓迎のお言葉をいただきました。最初は会場の熱気に緊張気味だった子どもたちも、グループのメンバーやお世話になる民宿の方と顔を合わせて次第に笑顔が増え、和やかな雰囲気の中で3泊4日のプログラムがスタートしました。



太湖大学堂児童によるカンフー披露

2日目は、小雪が舞う天候となりましたが、思い思いに雪遊びを楽しむ参加者の姿が見られました。広大な雪原でそりをしたり、力を合わせて雪だるまやかまくらを作ったり、雪合戦をしたり、雪の冷たさを利用したアイスクリーム作りを体験したりと、都会にはない自然のすばらしさを分かち合うことでグループのメンバーと距離を縮める1日となりました。



雪原でかまくら作りを楽しむ参加者

【報道関係お問い合わせ先】

ヒポファミリークラブ 広報室

TEL:03-5467-7041（代表電話のため、受付は平日9:00～17:30となります。あらかじめご了承ください。）

E-mail: kouhou@lexhippo.gr.jp

競争をした後、その雪玉をもとに雪像作りを行いました。細かい工夫が凝らされたものから壮大な作品まで、子どもたちのアイデアが詰まったユニークな雪像が並びました。つづいて午後にはキャンプファイヤーを実施しました。木を使用した原始的な道具を使ってグループで力を合わせて火をおこし、竹の弓矢で点火しました。キャンプファイヤーが燃え上がった周りでは、参加者が世界の音楽で歌ったり踊ったりして交流を深めました。また、家族のように温かいおもてなしをしてくださった民宿の「お父さん、お母さん」たちが、中国や韓国から参加したメンバーと一緒に日本語、中国語、韓国語で「ふるさと」を合唱するパフォーマンスを見せてくれました。



キャンプファイヤーを囲み歌い踊る参加者

最終日のクロージングセレモニーでは、グループごとに用意した1分間のパフォーマンスを披露し、この4日間を振り返りました。また、代表者が楽しかった思い出や仲間の成長を発表しました。タイからの参加者は、「参加できてよかった。初めての人なのに一緒に活動して仲良くなれた。」と語り、日本語学校に通う中国人留学生からは、「最初はグループの子どもたちが緊張してしゃべらなかったがどんどん仲良くなった。みんな一緒に雪で遊んだり雪だるまを作ったりして、いい思い出。グループのみんなに感謝します」という声が聞かれました。



グループの旗を掲げて感想を発表する様子

ヒッポファミリークラブは、子どもたちの自然体験と国際交流、多世代間交流を通して、国籍や文化、世代、価値観の違いを自然に受容する心の成長と、共同生活を通じた主体的・対話的な姿勢の育成に貢献します。次回は、2019年7月27日（土）～7月30日（火）に長野県飯山市斑尾高原で「第5回多言語ネイチャーキャンプ」を開催予定です。

「第6回多言語・雪の学校」開催概要

- 日時：2019年3月27日（水）～3月30日（土）3泊4日
- 場所：長野県飯山市なべくら高原森の家（飯山市照岡1571-15） 他
- 主催：一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ
協賛：一般社団法人 信州いいやま観光局

■一般財団法人 言語交流研究所

1981年10月、多言語活動の提唱者である榊原陽氏が設立。以来、「ことばと人間」を研究テーマに、多言語の自然習得及び多国間交流の実践を通して、言語と人間の科学的探究を進め、国際間の理解と人類の共生に寄与することを目的とした活動を行っている。2013年1月に一般財団法人に移行、2019年10月に設立38周年を迎える。

■ヒッポファミリークラブ

一般財団法人 言語交流研究所が運営する「ヒッポファミリークラブ」（会員制）は、「多言語の自然習得活動」、「国際交流活動」、「研究・開発活動」の3つを柱とし、家族や地域の会員と共に、様々な国や地域のことばを自然に身につけ、様々な人に出会い、共に育つことのできる環境づくりに取り組んでいる。2019年3月時点、全国約700カ所の活動場所に約20,000名のメンバーが所属し、日本国内だけでなく海外（アメリカ、メキシコ、韓国）にも活動が広がっている。

■オフィシャルサイト

<http://www.lexhippo.gr.jp/>

【報道関係お問い合わせ先】

ヒッポファミリークラブ 広報室

TEL:03-5467-7041（代表電話のため、受付は平日9:00～17:30となります。あらかじめご了承ください。）

E-mail: kouhou@lexhippo.gr.jp